

2024年度 第51回 国際福祉機器展(H.C.R.2024)

義肢装具啓発プログラム 報告書

開催日 2024年10月2日(水)～10月4日(金)

2024年10月2日(水)～10月4日(金)10:00～17:00に、東京ビッグサイト 東展示ホールにて、第51回 国際福祉機器展(H.C.R.2024) 義肢装具啓発プログラムが開催されました。

今回初の試みとして、テクノエイド協会主催により、第51回 国際福祉機器展にて義肢装具啓発プログラムを行いました。本プログラムには日本義肢装具士協会に加えて日本義肢協会、日本義肢装具教育者連絡協議会、日本福祉用具・生活支援用具協会義肢装具部会に協力いただきました。

義肢装具士について世間に認知してもらい、その重要性を周知する事を目的として、「筋電義手体験・実演」、「大腿義足実演」、「3D技術による義肢装具製作」、「義足の組み立て体験」、「義肢装具展示」等の啓発活動を行いました。

3日間のテクノエイド協会義肢装具啓発プログラムブースへは、一般の方々、専門学校学生、医療専門職、ユーザー等の延べ約420名が参加し盛況のうちに無事終了しました。以下に啓発プログラムの概要を説明します。

筋電義手体験・実演

Össur、Otto Bock(共に企業)の協力で、最新の筋電義手体験とそのユーザーの実演を行う事ができました。

来場者は義手の進化にとっても驚いており、操作体験では自分の筋肉を動かすと義手が動く事に感動している様子でした。中には実際の義手ユーザー様にも来場いただき、次に義手を作る際の参考にされていました。



筋電義手実演の様子

大腿義足実演

Otto Bock、ナブテスコ(共に企業)の協力で、最新の大腿義足ユーザーの実演を行う事ができました。

ユーザーによる日常生活の実演や入院時のリハビリの体験談など、義肢装具の重要性を具体的に示してくれました。

義肢装具が単なるADL改善を目的とするにとどまらず、生き生きとした人生を送るための体の一部になっている事を理解してもらえたのではないかと思います。



大腿義足実演の様子

3D技術による義肢装具製作体験

プロテオールジャパン(企業)の協力で、3D技術による義肢装具製作体験を行う事ができました。i-padを使用した非接触での体のスキャニングを見た来場者は、3D技術の進歩に驚いてました。

他の医療職の方々に3D技術の利点(患者負担の軽減、早期納品など)を伝えることができました。今後はより多くの臨床現場で働く医療職の方々へ3D技術を知ってもらいたいと感じました。



3D技術体験の様子

義足組み立て体験



義足組み立て体験の様子

下腿義足を3つの部品に分けて、それを工具を使って組み立てる体験です。

義足はアライメントというバランスからなっているため、ただ組み立てるだけでは歩けるものにはなりません。それを来場者にお知らせして、義足の特徴を知ってもらいました。

ユーザーによって義足の製作方法を変えたり、パーツを選定する必要性があったりなど、普段の業務についても体験を通して伝えることができました。

義肢装具展示



義肢装具展示の様子

展示用の義肢装具を用意し、来場された方達に実際に見てもらいながら説明をしました。展示品に触れていただき、質問にも随時答えました。

来場された方にコルセットを装着してもらい、日常動作を行う事で制限されることやその必要性を説明しました。展示している装具はどんな方に使用するのか、などの質問もあり、義肢装具の事を多くの人に知らせる事が出来ました。

各学校パンフレット設置および 動画視聴コーナー

来場者に義肢装具養成校を知ってもらう
目的で各養成校のパンフレットを置きました。

また、義肢装具士協会で制作したビデオ動
画を視聴コーナーで流しました。各ブースで
色々体験した後、休憩スペースとしても利用
してもらいました。

動画を熱心に見る方も数名おり、関心の
高さが伺えました。



動画視聴コーナー

PRビデオ(アニメーション)等放映

テクノエイド協会により、義肢装具士になる
ためのPRビデオ(アニメーション動画)を
作って頂きました。

当ブースに立ち寄って下さった方々に義肢
装具士についての説明をする際、このアニ
メーションを見て頂きながら同時に行くと、
とても理解してもらいやすかったようです。

また、テクノエイド協会からはパンフレット
と一緒に配布するクリアファイルも作成して
頂き、とてもなじみやすい印象を与えられた
と思います。



PRアニメーション放映の様子

イベントを終えて

テクノエイド協会主催により、第51回 国際福祉機器展にて義肢装具啓発プログラムを
行いました。

本プログラムには日本義肢装具士協会に加えて日本義肢協会、日本義肢装具教育者
連絡協議会、日本福祉用具・生活支援用具協会義肢装具部会が参加し、近年国家資格取
得者が減少している義肢装具士について世間に認知してもらい、その重要性を周知す
る事を目的として活動しました。

3日間のテクノエイド協会義肢装具啓発プログラムブースへの来場者数は初日
10/2(水)は約150名、10/3(木)約170名、10/4(金)約100名の一般の方々、専門
学校学生、医療専門職、ユーザー等の延べ約420名が参加し盛況のうちに無事終了し
ました。

来展いただいた方々の多くは医療・福祉系に携わる学生や職員で、現在の義肢装具の
技術発展に皆驚いていました。そもそも義肢装具士について知らなかった方も、ブース
で説明や体験を受けて「魅力的な仕事」だと感じてくれる人が多かったように感じまし
た。

もし再びこのような機会を頂けるようでしたら、事前のアナウンスを行い他の医療職
の方々からの義肢装具に関する質問を多く受けられる場としても活用させてもらいた
いと思いました。

担当幹事：安部勉